



シェイクハンド

第58号
R2.1

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!



新年のご挨拶



一般社団法人
静岡県訪問看護ステーション協議会
会長 **渡邊 昌子**
新年あけましておめでとう
ございます。

会長2年目を迎え、役員
や会員の皆様、事務長等多

くの方のご支援に心より感謝いたします。

協議会は今年4月の県医師会新会館完成に伴い、
そちらに移転いたします。新たな拠点として医師会
をはじめ多職種と連携し、さらなる在宅医療の推進
に努めて参ります。腰を据え在宅療養の課題と向き
合える環境ができたことは喜ばしく、県医師会長様
や関係各位に感謝申し上げます。

今後も会員の皆様が、訪問看護師として地域の
ニーズに応え、誇りと責任を持ち、県民の健康で幸
せな暮らしを考えた看護を提供できるよう訪問看護
の質と量の確保をめざし尽力して参ります。本年も
よろしく願いいたします。

中部支部長
訪問看護ステーションスポット
所長 **石神 弘美**

新年明けましておめでとうございます。

昨年6月に、協議会中部支部長となりました。何
もわからないまま、前任の横田さんにおんぶに抱っ
こ状態で6ヶ月、あっという間に経過してしまいま
した。

「ほとんど在宅、たま～に入院」の時代、訪問看護
の果たす役割り、期待も大きくなってきています。
地域の期待に応えることが出来るよう、私達も頑張
らねば…と思っています。未熟ではありますが、中
部支部活動も、皆様のお力をお借りし、頑張ってい
きたいと思っています。皆様ご協力を宜しくお願
い致します。

東部支部長
ラポールあい訪問看護ステーション
所長 **野中 美保子**

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、令和の新しい年で天皇即位行事等、身を
引き締めた年でした。

今年は、いよいよ東京オリンピックの年でワクワク
しています。

今後、医療の高度化、専門分化が進む中、暮らし
を支え自分らしく生きる支援が更に必要となり、そ
れぞれの地域の特性に合わせた看看連携が必須とな
ります。東部でも各地域で所長会議を定期的に開催
し、市町や病院、地域施設や医院・クリニック等と
の連携を含め、地域包括支援の社会的取組みにも協
力中です。私たち看護師はどこの立ち位置でもスー
パーコーディネーターです。

訪問看護師としての専門性・役割を發揮し、本
人・家族の意思決定に基づく暮らしの支援が出来る
ように東部役員の一員として、微力ではありますが
皆さんと頑張っていきます。

今後ともよろしく願いいたします。

西部支部長
訪問看護ステーション住吉
所長 **山口 美津子**

明けましておめでとうございます。いつも支部活
動にご協力いただき、ありがとうございます。昨年
は看護協会との連携を目的に「まちの保健室」に参
加させていただきました。ご協力ありがとうございました。
今年も引き続き参加をさせていただき「ま
ちの保健室」に来ていただいた方に訪問看護のこ
とを知ってもらう機会になるような活動ができればと
考えております。

毎年新規の訪問看護事業所が開設されており、新
しい仲間が増えてきたことを嬉しく思います。地域
のニーズに応えられる看護師の育成も大切であり、
質の向上のために研修の企画をするとともに、支部
内の交流が図れる活動をしていきたいと思ひます。
今年もよろしくお願ひします。



在宅ケア普及啓発 県民フォーラム(中部)

川根本町訪問看護ステーション 中原 瞳

テーマ：「病気があっても、
自分らしく自宅で過ごすために」

開催日時：令和元年11月16日(土)
13時00分～16時00分

会場：静岡労政会館ホール
参加者：94名

今回、知人から秋山さんとはとにかく凄い方だからと勧められていたので、どのようなお方なのかとても楽しみに参加させて頂きました。

第一部のフォーラムの中で秋山さんをご自身の訪問看護の実践事例と経験した「在宅ケアの不思議な力」についてたくさんお話くださいました。その言葉には真実味があり、どれも心に残っています。

- 訪問看護とは、究極の個別ケアである。
- 町のおせっかいおばさんになる＝「あなたのことが気にかかっているよ」という姿勢でいると相手が心を開いてくれる。
- その人の輝きを引き出していく。
- 在宅は療養の場ではなく、生活の場であり、病室を持ち込まない。
- 「時々入院、ほぼ在宅」ではなく「ほとんど在宅、たまに入院」をすすめていく。
- この町で健やかに暮らし、安心していくために支援する。暮らしの中で最後まで生きていただくようにする。

第二部のシンポジウムでは「専門職と共に、安心して自宅で過ごす」というテーマで、医師・ケアマネ・訪問看護の視点からそれぞれの役割や役目を知ることができました。秋山さんは現在の社会的な背景を踏まえた鋭い視点からのコメントであり、なるほどと思いました。

フォーラム中に、現在訪問させて頂いている利用者のごこと重ねてお話を聞かせて頂きました。納得がいくこともあれば、ハッとさせられることもありました。利用者に対して私は自己優先的な考えでケアしていなかっただろうかと考えさせられました。

秋山さんの書籍を読ませていただきましたが、その中に「人間修行である」と記載されており、まさにその通りだと思いました。もっと自分に知識や技術があったらと虚しくなったり、利用者とのコミュニケーションをどのようにとったらいいのかと焦ったり様々な思いで立ち止まることもたくさんあるから

です。講演後、一日中臥床している89歳の方の訪問をした際、難聴でいつもは会話が中々進まない方だったのですが、秋山さんの「その人の輝きを引き出していく」ということを思い出し、畑仕事をずっとされて来たことを尋ねました。すると、即答ではっきりとした声で返答があり、こういうことなのかと驚きました。それから同じように訪問先で意識して行くと、利用者の反応が変わるのが分かりました。その人の持っている力（輝き）を見つけて、本人や家族に気づいて頂くように正しい視点、正しい知識で訪問させていただくことが大切なのだと思えました。



秋山さんに超高齢社会の中で向いてく方向性も教えていただけたと思います。日頃から気軽に相談できるような場づくり、環境づくり、人づくりの場がこれから大切になってくると話がありました。地域の中で「在宅看取り」を経験した方々がその後協力者になるということや、若い世代にも自分たちはこの地域でどうやって過ごしていきたいか考える機会を作っていくことの大切さも教えて頂きました。

今回のフォーラムを通して、病気であっても在宅でその人らしく生きていくことがどれだけ素晴らしいことなのか改めて教えていただけたと思います。困難に出くわした時は秋山さんの言葉を思い出して「欲張らず・絶望せずに・地道に」利用者に向き合っていきたいです。「一度しかない命、そこに寄り添える、出会える幸せがある」と秋山さんのように心から言える時が来るように訪問看護を続けていきたいです。

今回のフォーラムを通して、病気であっても在宅でその人らしく生きていくことがどれだけ素晴らしいことなのか改めて教えていただけたと思います。困難に出くわした時は秋山さんの言葉を思い出して「欲張らず・絶望せずに・地道に」利用者に向き合っていきたいです。「一度しかない命、そこに寄り添える、出会える幸せがある」と秋山さんのように心から言える時が来るように訪問看護を続けていきたいです。





訪問看護ステーション看護師研修【新任研修】

訪問看護事業所の就業3年以内の看護師を対象とした新任研修、訪問看護師としての必要な知識及び技術・態度の習得を行い在宅患者に適正な在宅医療が提供できる実践能力を養うことを目的に、9月7日、コミュニケーションと接遇・訪問看護制度の理解で41名、10月19日、リスクマネジメントの基本・訪問看護の役割の理解で39名、の受講がありました。受講者2名の方からの研修報告です。

「新任研修」を受講して①

訪問看護ステーションふれあい

藤原 真由美

私は平成30年4月に訪問看護ステーションに転職し、約1年半が経過した9月初旬に新任研修を受講しました。この研修全体の学びから、社会的に訪問看護は現在何を求められているのか、今後さらに何が求められていくのかを考えることができました。

主に接遇などを学ぶ午前中の講義では、身近な問題として自分の普段の振る舞いがどうなのかと振り返り、利用者に対し何を大切にしておかかわっていくべきかを考えることができました。自分自身を客観視し、相手の立場に立って物事を考え、利用者や家族と接していきたいと感じました。

午後には訪問看護制度についてその歴史や、介護・医療保険制度について詳しい講義がありました。浅かった知識を詳細に解説して頂き、理解を深めることができました。個人的には、これまで大きな病院での勤務経験が少なく、医療事務のスタッフに費用に関する制度については頼りきりであったことを反省しました。訪問看護費の算定構造についてはかなり複雑であり、習得するまで時間を要すると思います。しかし、この研修では基本部分にかかる費用、加算される費用とその条件、各加算についての詳細な内容についても細かく講義して頂き、さらに例題を個人で検討して計算する学習方法で分かりやすく学べました。曖昧な知識しかなかった訪問看護指示書や在宅患者訪問点滴注射指示書についても振り返ることができました。

最後の講義では訪問看護の本質について学び、主役である利用者を支援・援助する役割を担う看護師として、訪問看護をさせていただいていることを本当に幸せなことだと思えました。今後も利用者を多職種で支え、協力しあっていくために必要な報告・連絡・相談を心がけていきたいです。これまでの経験はまだ短期間ではあるが、訪問看護が利用者主体を第一に考えたものであること、訪問中は利用者のためだけに充実した看護やコミュニケーションを行える時間がそこにあることを実感しています。研修で学んだことを忘れず、訪問看護師を末永く続けていきたいと思っています。

「新任研修」を受講して②

森町訪問看護ステーション

岡部 香織

訪問看護師として働き始め半年が経ちました。自分が訪問看護師として働くことは想像していませんでした。今まで病棟勤務だったため、当初病棟との違いに戸惑うことが多々ありました。実際、訪問看護師として働くようになり、療養の場が自宅であることで利用者や家族の思いが反映されている部分が多く感じられ、それを可能な限り支えようとする看護にとっても魅力を感じました。

今回、新任研修に参加し、この半年間の訪問看護師としての自分の看護を振り返る良い機会になったと思います。話し方や態度はどうか、無知であった訪問看護制度のこと、リスクマネジメントの基本や対処法について学び、実際の事例を元に訪問看護の役割について学ぶことで改めて気づかされる点が多かったです。

訪問看護制度のことや在宅ならではのリスクマネジメントについては、理解した上で常に意識する必要があると思いました。

在宅ではスピードではなく丁寧さが大事、そして“ケアする看護師の手は、看護の心を届ける大切な道具”という言葉がとても心に響きました。在宅はその人が落ち着く空間でもあり、しっかり向き合える時間を持つことができると思います。自己満足な看護ではなく、信頼できる関係を築けるよう一つひとつのケアを大切に、在宅でできることを“在宅だからできること”に視野を広げ、尊厳ある関わりを大事にしていきたいです。そして、出来ないことばかりに着目し、理想ばかりを追求しがちですが、何ができているか、そこからできる方法は何かを一緒に考え、プラスの要素をたくさん見つけられるような関わりを意識していきたいです。

今回の研修で、同じような悩みを抱える仲間達と出会い交流できたことで、訪問看護師としてもっと頑張ろうという気持ちになりました。そのおかげで訪問看護がより楽しいと実感することができ、日々素敵な経験をたくさんさせてもらっています。

今回の研修を大きな学びの一つとして、今後の訪問看護に活かしていきたいと思っています。



ステーション紹介

東部 訪問看護ステーション桜づつみ

竹本 順子



ながら未来を開拓するという意味です。開設と同時にシズケア・かけはしを導入し、多職種連携と情報共有に努めております。昨年は医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師研修も修了しました。情報通信技術（ICT）時代に乗り遅れることなく、便利なことは積極的に取り入れ、利用者が住み慣れた町で最期まで過ごせるよう支援致します。中部圏社会経済研究所

あけましておめでとうございます。

訪問看護ステーション桜づつみです。

平成25年に開所し、翌年には居宅介護支援事業所を併設。そして平成30年に長泉町委託事業で長泉町医療介護連携センターを併設しました。長泉町は、人口43,300人。高齢化率は21.9%で、以前より想定されておりました1中学校区に1事業所を超え、5ヶ所のステーションがあり激戦区です。各ステーションにそれぞれ特徴があり切磋琢磨しております。

当ステーションは、看護師5名、理学療法士3名、作業療法士1名の人員構成で、長泉町をとりまく3市2町が訪問エリアです。ステーションのスローガンは、「継往開来」先人の技術を受け継ぎ、発展させ

の調べによると、人工知能（AI）が選んだ魅力的な市町NO.1の長泉町で地域の人々と共に、今後もスタッフ一同頑張ります。

余談ですが、私の座右の銘は「不拔之志」です。意味は、どの様なことがあっても、諦めずに立ち向かうこと。何事に対しても、動揺せず耐え抜くことです。

新しく令和の時代を迎え、今後高齢者の方々が増えてまいります。これからもこの方々を支えてまいりますので宜しくお願い致します。

次は「東部訪問看護リハビリステーションテレサ」さんです。

中部 ひなたぼっこ水道町訪問看護ステーション

曾根 香織

こんにちは。ひなたぼっこ水道町訪問看護ステーションです。当ステーションは2015年に開設し、5年目を迎えています。職員は、看護師3名、事務員1名と小規模なステーションです。

看護小規模多機能も併設しており、医療の面でのケアが多く、日々忙しく過ぎています。

会社としての理念は「あなたのために」です。そして訪問看護は、「その人らしく出来る限り自宅で



の生活が送れるように支援していく」という方針です。

スキルアップのため、研修にも参加させて頂いています。これからも、訪問看護・看護小規模多機能と共に、地域に密着し、より良いケアが提供できるよう、皆で心がけていきたいと思っています。

次は「訪問看護ステーション有度の里」さんです。



西部 訪問看護ステーション有玉

市川 七奈子

こんにちは。訪問看護ステーション有玉です。当ステーションは平成14年に開設し、17年目を迎えました。浜松市東区に事務所を構えており、訪問地域は市内を対象としています。現在、常勤看護師2名、非常勤看護師3名で活動していて、就職時には「訪問看護は初めて」の看護師ばかりでしたが、すでにベテラン揃いになっています。どの看護師も笑顔が似合い、信頼を持って相談できるスタッフ達です。もう長年訪問している利用者もおり、最高年齢は100歳の方。まだまだお元気に過ごされています。関わっている利用者や家族の方が安心して生活を送れるよう看護を提供しています。

日々の業務内容として、介護予防から在宅療養の介助、医療処置、ターミナルケア、家族の介護支援まで幅広く、目まぐるしい現状ですが、一人ひとりにより添える看護ができるようにしていきたいと思っています。ケアや対応に悩み「これで良かったのか」と思うこともあります。現場では1対1の看護ですが、スタッフ同士、声を掛け合っています。

事業所では訪問介護、居宅支援事業所を併設しています。介護スタッフやケアマネジャーとも連携プレーです。各分野から利用者やその家族の方々を支援しています。看護は介護に活か

され、介護は看護に活かされます。連携ももっと密にしていき、利用者や家族の笑顔を守り「訪問看護を利用して良かった」と思ってもらえるように、訪問看護の基本である『住み慣れたご自宅で自由に生活したい。そんな思いを看護の側面から支援するサービス』をより向上できるよう感謝の気持ちを忘れずに、学び成長し最良のケアにつながるよう目指していきます。

次は「訪問看護ステーションしろわ」さんです。





訪問看護技術向上研修に参加して

令和元年度から新たに訪問看護技術向上研修が始まりました。
今回は研修に参加されたお二人の方に、参加された感想を伺いました。

「訪問看護技術向上研修」に参加して①

訪問看護ステーションとよだ
米田 名緒子

今回の訪問看護技術向上研修に参加して、ストーマの種類や特徴、看護のポイント等のストーマケアの基本について学びました。

私が以前勤務していた病棟では、年間1～2人のオストメイトが入院する位でした。ストーマに関して漠然とした知識しか無かった私には、研修は新発見の連続で、講師の方の「ストーマの管理を正しく行えるようになれば、スキューバダイビングだって登山だって、出来ないことは無い」という言葉が印象に残りました。ストーマに限らず、障害を抱える人は少なからず日常生活に制限をかけながら生活していると思っていた私に、その言葉はとても力強く響きました。

オストメイトは、本来自分の意志で排泄をコントロール出来るはずなのに、それが出来ないという、人間としての尊厳を失ったと感じる位のショックを受けてきていると思います。ストーマ造設時にストーマ管理の指導を受けていても、臭いが気になって外出が出来ない、排泄孔がお腹についている事へのボディイメージの変化等、オストメイトは様々な問題と向き合っていかなければなりません。更には、癌が再発するのではないかと不安と闘いながらのストーマ管理となります。

その中で、医療の場とオストメイトや家族をつなぐ訪問看護師の存在が求められるのだと思います。ストーマを正しく管理し、ストーマと共に生きていくことを支援していくためには、常に新しい知識と医療と連携する力を身につけること、学び続けていくことが大切なのだと思えました。



「訪問看護技術向上研修」に参加して②

三島市医師会訪問看護ステーション
平田 絵美

今回、訪問看護技術向上研修に参加しました。

講師である13名の東部WOCの会メンバーが紹介され、メーカー5社の各ブースもあり、とても活気にあふれたものでした。

前半はストーマの基本・晚期合併症・社会福祉制度・患者会やストーマ外来についての講義があり、後半はグループ別にWOCメンバーがついてのストーマ装具交換演習がありました。

私たちのステーションではオストメイトは少なく、年間4～6名です。受講当時のオストメイトは1名でしたが、その方は類天疱瘡で皮膚のコンディションが悪く、更に食後にガスの量が多く、圧でパウチが剥がれて交換は頻回でした。経済的にも困窮している状態だったため、いかに週1回の交換までパウチをもたせるかが目下の課題でした。ストーマを造設してから転院したためWOCから離れており相談もできず、ずっと同じ型のパウチを工夫しながら使用していました。この状況を改善できるヒントがあればと思ったのが受講のきっかけです。

前半の講義を受けている際には過去に関わったオストメイトのストーマを思い出しながら、こうすればよかったのか、このタイプが適応かなど実際に試してみたいような具体的な内容が多くありました。後半の演習時には、日頃パウチは高価なものであり余分に入手できないため、実際に自分の腕に貼っての引っ張り強度や、剥離剤の有無で皮膚への負担の違いを体感できたのは貴重で新鮮な驚きでした。講師には、関わっているオストメイトの皮膚保護剤の貼り方の具体的な指導や相談にのっていただきました。

ストーマの状態や体格の変化によって看護師サイドでパウチを選択出来ることを知らなかったのですが、実際家庭で購入してもらうには箱単位であり、現状では変更はまだ簡単にはできない状況です。今後はメーカー側にこちらから積極的に関わっていく必要があると感じました。

今後もオストメイトに関わることはあると思います。また疑問や機会があれば参加したい、魅力ある研修でした。



小児訪問看護研修を受講して

今年度も小児訪問看護研修は東部・中部・西部の3会場で開催しました。
その中で東部・西部会場で受講された方に研修の感想を伺いました。

「小児訪問看護研修」を受講して（東部）

訪問看護ステーションうしづせ

綿 引 里 美

私が病棟勤務から訪問看護に異動し、7年がたちます。2年前に1件の医療的ケア児の訪問を経験しましたが、育児・医療的ケアのすべてに関しては両親が完璧に担っており、訪問は、主に児の状態観察と母親のリフレッシュ時間の確保でした。9月から新たに医療的ケア児の訪問をすることとなり、小児在宅について多方面からの関わり方を学びたく、参加しました。小児を受け入れる際、スタッフ間でも「小児は、初めて聞く病名が多く難しそう」「経験したことがなく不安」「お母さん達より知識がないと信頼関係を築くのが大変そう」という不安もありましたが、小児在宅ケアコーディネーターの上原さんの「病名に囚われなくて良い。凄く稀な疾患も多く、どのように進行するか、予後はどうか、などわからないこともある。それより病態に着目することが、その児を知ることになる。」という言葉で、病名よりも、いつもの様子、その児にとっての正常を理解し、ケアしていくことが重要だと学びました。

- 児が嫌がらないための工夫をすること。
 - 発達段階に見合った遊びをケアの中に取り入れ、児が楽しく過ごせること。
 - 母親は自責の念を抱きながらも児を愛し、大切に育てている、その思いに寄り添うこと。
 - 兄弟も両親の愛情が療養児一人に注がれているような気持ちになり寂しい思いをしている為、両親とその子だけの時間を作ってあげること。
- 上記の大切さが各講義に共通していました。

スライドや動画に映った児の「生きている」「生きようとしている」姿が、関わる大人達の原動力になっているのだと感じました。

今回の研修で、在宅における小児看護の役割は、両親ができることや工夫していることを尊重し、両親の役割は奪わないことだと学びました。また成長に合わせケアの内容や社会資源の活用も変化していきますが、両親と一緒に考え多職種とも連携を図ることの重要性も学びました。



「小児訪問看護研修」を受講して（西部）

訪問看護ステーションあすなる

理学療法士 川 嶋 絢 子

数年前からステーションの看護師の指導を受け、小児の訪問リハビリに行くようになりました。しかし、成人のリハビリとは違い、どんなに教科書を復習し、参考書を集めてみても不安ばかりが大きくなり、緊張して訪問する日々が続いていました。そのため、今回の受講が本当に楽しみでした。

制度についての講義では多くの気づきがありました。特に災害時の課題が多く、昨年の停電をきっかけに急速に支援が進んでいるそうです。私自身も台風後の訪問で「停電しそうで怖かった」とぐったりと疲れているお母さんを見て、改めて支援の大切さを感じました。看護ケアの講義では、各疾患の起こりやすい変調等を丁寧に紹介してくださり、イメージをつかむことができました。特に、急変はリハビリ中にも起こりうるので、改めて対応を学んでいかなければいけないと思いました。リハビリの講義では、成長とともに関節拘縮や側彎も進行し、完全には予防できないけれど、柔らかい身体づくりのサポートをして、楽しめる時間を作っていくということに、リハビリの目的や希望を感じました。「楽な姿勢になり、好きなことを楽しむ、ということが学習や発達の第一歩になる」ということを実際の報告から学び、深く納得しました。2日目午後のお母さんの話では、大切な思い出の写真とともに、たくさんの素敵な話を聞かせていただきました。私自身、訪問時はお母さんから教えてもらうことばかりですが、その上でお母さんの気持ちを理解して悩みを共有し、タイマーに答えを出すことがよい関係を構築する鍵になるのではないかと、後の講義で学びました。

2日間の講義内容は多岐にわたり、様々な分野について勉強することができたおかげで、今までの漠然とした不安が「前向きに勉強を続けていこう」という思いに変わりました。本当にありがとうございました。



研修のお知らせ

◆新任訪問看護師等育成研修

新任の看護師等を対象に、他の訪問看護事業所での同行訪問等の実践研修をとおして、訪問看護師としての必要な基礎を学びます。

詳細につきましては開催案内やHPをご覧くださいの上、協議会までお申し込みください。

実施期間：～令和2年2月28日(金)まで随時行っております

対象者及び：①新任の訪問看護師・PT・OT等（就業して1年以内） 1日～5日/人

研修期間 ②精神・小児の分野への訪問看護未経験者 1日～2日/人

③新規開設予定の看護師等 1日～5日/人

受講料：無料

◆西部 講演会

松岡弓子氏 講演会「父 立川談志の思いを支えた家族のちから」を開催します。

当日参加も可能です。お知り合いの方に声を掛け、お誘いあわせの上ぜひお越しください。

開催日時：令和2年3月7日(土) 14時～15時30分

会場：浜松市地域情報センター ホール

参加費：無料

申込方法：電話かFAXで協議会までお申し込みください。

◆ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム

開催日：令和2年3月20日(金)・21日(土)の2日間

会場：静岡県男女参画センター あざれあ

受講料：会員1万円 非会員1万5千円 ※受講修了者には修了証を発行します。

詳細につきましては開催案内やHPでお知らせします。

◆全体研修会「診療報酬改定について」

開催日：令和2年3月28日(土) 14時～16時

会場：静岡県総合社会福祉会館シズウェル 703会議室

講師：一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会
副会長 上野桂子氏

受講料：会員1,000円

編集後記

令和初めての新年、あけましておめでとうございます。

診療報酬改定、オリンピック・パラリンピックと大きなことが目白押しですね。

今年も皆さんの元気な声をお届けします。



シェイクハンドNo.58

2020年1月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0044
静岡市葵区西門町2-7
スズビル001 701号室
Tel 054-275-3339
Fax 054-275-3338
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 渡邊 昌子
編集者 木原 裕美 (医療法人社団 静岡健生会) 東部
原 とのこ (訪問看護ステーションあおむし) 中部
東 ゆり (訪問看護ステーションあすなろ) 西部